

YAMAHA

MJCB

MIDI JUNCTION CONTROLLER

取扱説明書

このたびは、ヤマハMIDIジャンクションコントローラーMJC8をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MJC8はMIDI機器どうしの複雑なパッチングを簡単にメモリーし、選択することのできるMIDIジャンクションボックスです。

MJC8の優れた性能をフルに活用されると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みくださいますよう、お願いいたします。

目次

特長

特長	1
ご使用上の注意	2
操作する前に	3
1.各部の名称と機能	3
2.MJC8の概要	4
操作方法	5
1.プログラムの呼び出し方	5
2.プログラムの作り方	5
3.メモリースタアの方法	6
応用例—MJC8を使いこなそう—	7
仕様	11
blankチャート	12
サービスについて	14

- MIDI IN端子×8、MIDI THRU端子×8を装備していますので、8台のMIDIマスター機器と8台のMIDIスレーブ機器を接続することができます。
- MIDI INとTHRUに接続した各機器を、パッチメモリーによって自由に組み合わせることができます。
- システムに合わせて作ったパッチメモリーは、本体メモリーに50通り記憶させておくことができ、電源を切っても消えることはありません。
- 19インチ・エフェクターラックに収納できますので、他のMIDI音源モジュールやエフェクターと同じラックに収納することによって、MIDIシステムをより機能的でコンパクトなものにすることができます。

ご使用上の注意

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因になりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 湿度の極端に高い場所
- 極端に乾燥した場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所

電源について

- 本機は日本国内仕様です。必ず、A C 100 V (50Hzまたは60 Hz)の電源コンセントをご使用ください。A C 100 V以外の電源は絶対にご使用にならないでください。
- 落雷などの恐れがある時は、電源コンセントから電源プラグを抜き取っておくことをお勧めします。
- 長期間ご使用にならない時は、電源コードをコンセントから外してください。

取り扱い・移動について

- キー、端子などに無理な力を加えることは避けてください。
- コード部分の断線やショートを防ぐため、コード類をはずす時は、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。
- 本機を移動する前には、コード類の断線やショートを防ぐため、電源コードや接続コードをすべて取りはずしてください。

外装のお手入れについて

- 汚れなどのお手入れは柔らかい布でからぶきしてください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発油で外装をふいたり、近くでエアゾールスプレーを散布したりすることはお避けください。

保証書の手続きと取扱説明書の保管について

- お買い求めの際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となる場合があります。
- この取扱説明書は、保証書とともに大切に保管してください。

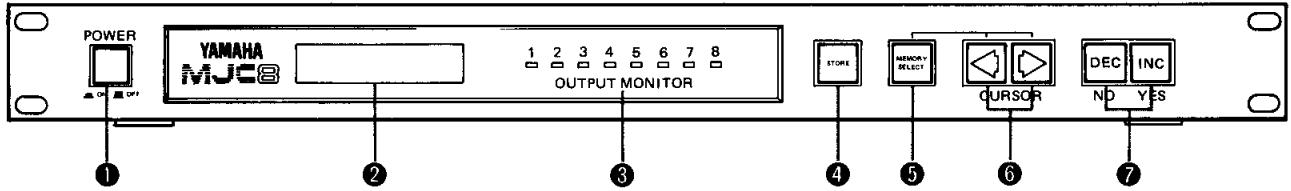
バックアップバッテリーについて

- 本機のメモリーの内容は、内部のバッテリーによって保護されているため、POWERスイッチを“OFF”にしても、消えてしまうことはありません。
- このバッテリーの寿命は約5年ですが、お早めに交換されることをお勧めします。
- バッテリーの交換は、お買い上げ店、もしくは最寄りの弊社電音サービスセンターにご相談ください。

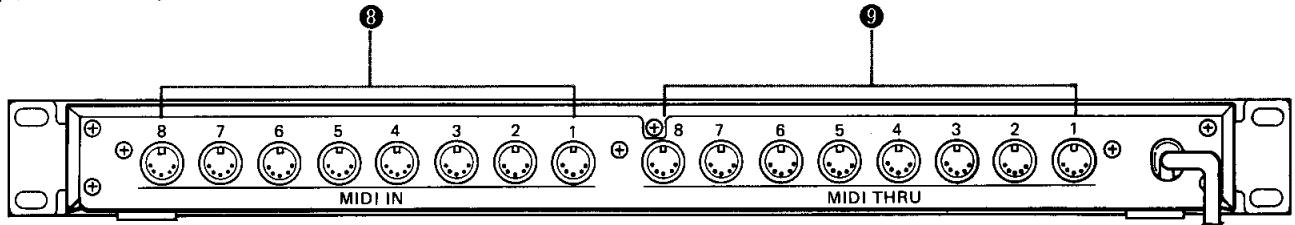
操作する前に

1. 各部の名称と機能

〔フロントパネル〕



〔リアパネル〕



① POWERスイッチ

M J C 8の電源をON/OFFします。

ONにすると電源OFF時のメモリーが呼び出され、LCDに表示されます。

② LCDディスプレイ

現在、セレクトされているパッチメモリーと、その内容(各MIDI機器の接続状態)を表示します。

③ アウトプット・モニター

現在、出力されているアウトプットのLEDが点灯します。システムの動作状態が一目で確認できます。

④ STOREキー

このキーを押すことによって、ディスプレイ表示が変わり、ストアモードになります。

⑤ MEMORY SELECTキー

カーソル・キーと組み合わせて、パッチメモリーをセレクトします。

⑥ CURSOR (カーソル) キー

ディスプレイ上のカーソルの移動や、メモリーナンバーを増減させます。

で(-)、 で(+)方向に変化します。

メモリーセレクト時…… MEMORY SELECTキーと組み合わせて、パッチメモリーをセレクトします。

プログラム作成時……ディスプレイ下段に表示されるカーソルを移動させます。

メモリー・ストア時……ストアするパッチナンバーを決定します。

⑦ DEC(NO)/INC(YES)キー

ディスプレイに表示されるナンバーを増減させたり、ストアを実行したりします。

プログラム作成時……アウトプットに対応するインプットをセレクトします。

メモリー・ストア時……ストアを実行(YES)したり、中止(NO)したりします。

⑧ MIDI IN端子

コントロール側のMIDI機器を接続します。

⑨ MIDI THRU端子

コントロールされる側のMIDI機器を接続します。

M J C 8を正しく使う為に、電源を入れる前にM J C 8のINPUTとOUTPUT(MIDI THRU)は、正しく接続されているかを注意しましょう。



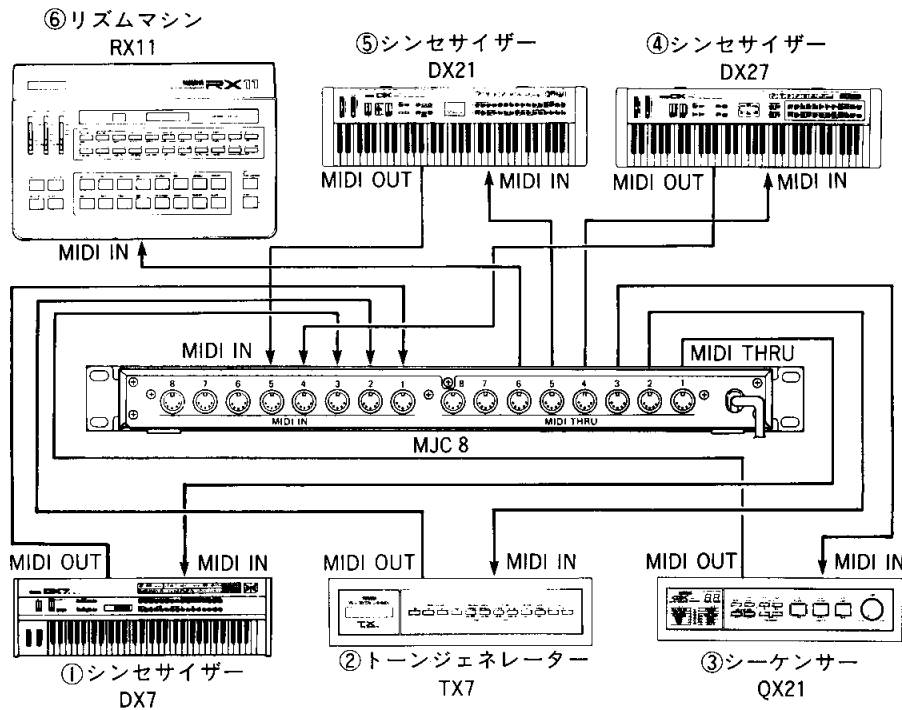
これをはっきり把握していないと、M J C 8のプログラム時に、リアパネルを確認しなければならないなどの面倒なことが起こりがちになります。その為にも、ブランクチャートをコピーして基本となるセッティングをメモしておきましょう。

2.MJC8の概要

MJC8は、8個ずつのMIDI INとMIDI THRUを装備することによって、8台のMIDI機器からの情報を任意のMIDI THRUに出力できるMIDIジャンクションコントローラーです。

これによって、8台のMIDIマスター機器からの情報を任意のMIDIスレーブ機器に送ることができます。

〔接続例〕



このセッティングで、DX7、TX7、DX21、DX27、QX21は、それぞれのMIDI OUTをMJC8のMIDI INに、また、それぞれのMIDI INはMJC8のMIDI THRUに、というように接続されています。

この接続状態は、フロントパネルのLCDディスプレイに表示できますので、その内容を一目で確認することができます。

OUTPUT(MIDI THRU)のナンバーです。

LCD表示例								
OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch	1	2	3	1	3	4	*	* *

プログラム(パッチ)ナンバーを表示します。

INPUT(MIDI IN)のナンバーです。上段のOUTPUTに対応しています。
*はどのMIDI INも選ばれていないことを示します。

上のディスプレイ表示では、
MIDI IN 2 (TX7)→OUTPUT1 (DX7)
MIDI IN 3 (QX21)→OUTPUT2 (TX7)
MIDI IN 1 (DX7)→OUTPUT3 (QX21)
MIDI IN 3 (QX21)→OUTPUT4 (DX27)
MIDI IN 4 (DX27)→OUTPUT5 (DX21)

のように、接続されていることを表しています。(OUTPUT 6,7,8はOFF)

MJC8では、ディスプレイ下段のINPUT(MIDI IN)のナンバーを変えることによって、MIDIシステムの接続状態を50通り作り、それにパッチナンバー(プログラムナンバー)をつけることによって、本体メモリーに記憶させておくことができます。これによって、MIDIシステムの演奏形態に合った接続を瞬時に呼び出すことができるのです。

番号ステッカーについて

MJC8の接続において、8台までのMIDI機器のINPUTとOUTPUTのナンバーは、前記の図のように同じものにしておくことをお勧めします。こうすれば、1台のMIDI機器を1つの番号で管理できることになります。また添付しております番号ステッカーを本体の見やすい場所に貼っておけば、トータルシステムを視覚的に把握できて便利です。

操作方法

1. プログラムの呼び出し方




M J C 8は、MIDIシステムの形態や目的に応じたプログラムを50通り記憶することができます。ここでは、そのプログラムの呼び出し方について説明します。

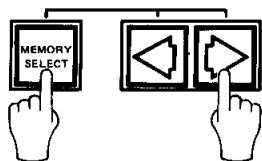
M J C 8のプログラムは、パッチ(patch)と呼ばれるナンバーがつけられています。そして、このパッチナンバーは、ディスプレイ上の左下に表示されています。

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	2	3	4	5	6	7	8

↑
“patch”の後にナンバーが表示されます。


[パッチナンバーの変更]


- (1)パッチナンバーを変えて任意のプログラムを呼び出すには、フロントパネルのMEMORY SELECTキーとカーソルキー   で操作します。
- (2)パッチナンバーを進めるにはMEMORY SELECTキーを押したままでカーソルキー  を押し、ディスプレイに表示されているパッチナンバーが増加します。



①メモリーセレクトキーを押したままで

②カーソルキーでパッチナンバーを進めます。

また、ここでカーソルキー  を押したままにしておくことで、パッチナンバーを連続して増加させることができます。

- (3)パッチナンバーを後退させたい場合は、2と同じ操作の領で、カーソルキー  によって操作します。

2. プログラムの作り方





ここではM J C 8のプログラムの作り方(エディット)の方法を説明します。

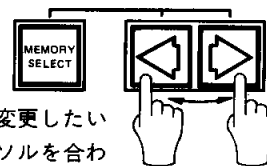
M J C 8では、ディスプレイ下段に表示されているINPUT(MIDI IN)のナンバーを変えることによって、それに対応するOUTPUTを設定してシステムを作ります。

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	2	3	4	5	6	7	8

↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑ この部分のナンバーを変えます。

[INPUTナンバーの変更]

- (1)INPUTナンバーの変更は、カーソルキー  、そしてDEC/INCキーで操作します。
- (2)まず、カーソルキー   で変更したいナンバーにカーソルを合わせます。

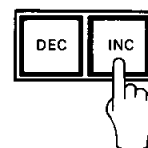


カーソルキーで変更したいナンバーにカーソルを合わせます。

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	2	3	4	<u>5</u>	6	7	8

←→
カーソルが移動します。

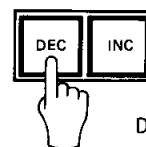
- (3)ナンバーを増加させたい場合は、INCキーを1回押しごとに1つつ増加します。(カーソル点滅)



INCキーを1回押しと1つつ増加します

この際、押したままにすると連続して増加します。

- (4)ナンバーを減少させたい場合は、DECキーを1回押しごとに1つつ減少します。(カーソル点滅)



DECキーを1回押しと1つつ減少します。

この際、押したままにすると連続して減少します。

プログラム例 1

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	1	1	1	*	*	*	*

LCD表示が上記の場合は OUTPUT1、2、3、4には、INPUT1からの情報が出力され、OUTPUT5、6、7、8はOFFとなります。（“*”は、そのOUTPUTの出力がOFFになっていることを意味します。）

プログラム例 2

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 2	1	1	2	2	3	3	4	4

LCD表示が上記の場合は OUTPUT1、2には、INPUT1からの情報が、OUTPUT3、4には、INPUT2からの情報が、OUTPUT5、6には、INPUT3からの情報が、OUTPUT7、8には、INPUT4からの情報が出力されます。

3. メモリストアの方法

MJC8は、システムの形態に応じて作ったプログラムをパッチナンバーをつけて、パッチメモリーとして本体メモリーに50通り記憶しておくことができます。ここでは、パッチメモリーの作り方を説明します。

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	2	3	4	5	6	7	8

上のディスプレイ状態で、パッチナンバー“1”のメモリーを他のパッチナンバーにストアしてみましょう。

[パッチナンバーを設定してストア]

- (1)メモリーストアには、STOREキー、MEMORY SELECTキー、カーソルキー、DEC/INCキーの全てのキーを使います。ここで、パッチナンバー“1”のプログラムをパッチナンバー“2”にストアしてみましょう。
- (2)STOREキーを押します。



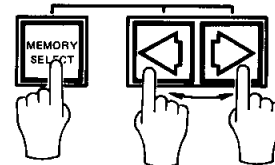
ストアキーを押します。

STORE								
patch	1	to	1?					

のように、表示が変わります。

現在のパッチナンバーです。

- (3)MEMORY SELECT キーを押しながら、カーソルキー でこれからストアしたいパッチナンバー“2”を表示させます。

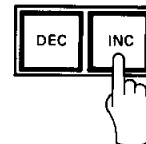


- ①メモリーセレクトキーを押したままで
- ②カーソルキーでストアしたいパッチナンバーを表示させます。

STORE								
patch	1	to	2?					

ここに、“2”と表示させます。

- (4)INC(YES)キーを押すと、ストアが実行されます。

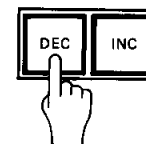


INC(YES)キーを押すとストアが実行されます

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 2	1	2	3	4	5	6	7	8

この部分の表示が“2”となります。

- (5)ストアを中止させたい場合は、DEC(NO)キーを押します。



DEC(NO)キーを押すとストアを中止します

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch 1	1	2	3	4	5	6	7	8

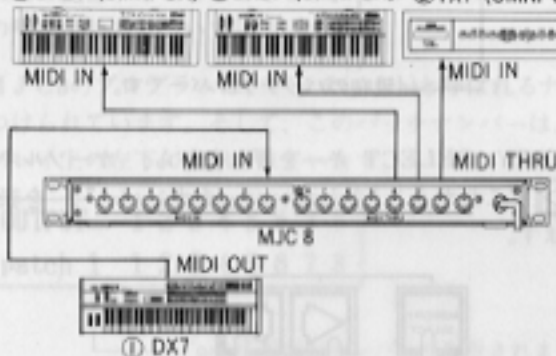
元の表示に戻ります。

応用例—MJC8を使いこなそう—

TYPE 1

1台のマスターキーボードで3台の音源をコントロールする。

④DX21 (OMNI ON) ③DX27 (OMNI ON) ②TX7 (OMNI ON)



LCD表示

```
OUTPUT  1 2 3 4 5 6 7 8
patch 1 * 1 1 1 * * * *
```

ディスプレイをこのように表示させます。

(*は、OUTPUTが使われていないので、ナンバーは、いくつでもかまいません)

これは、MJC8の最も初歩的な使い方といえます。マスターキーボードとなるDX7によって、TX7、DX27、DX21をコントロールするわけです。この際、スレーブ側の機器の選択は、MJC8でパッチメモリーしておくことにより、ワンタッチでできますのでマスターキーボード側の送信チャンネルに応じた受信チャンネルナンバーの設定という操作は不要になります。従ってスレーブ側は全てOMNI ON (全てのMIDIチャンネルが受信可能の状態) にしておけばいいことになります。

ディスプレイの表示をみてみましょう。現在、使われているOUTPUT (MIDI THRU)は、

TX7……………OUTPUT 2

DX27……………OUTPUT 3

DX21……………OUTPUT 4

となっています。そして、それに対するMIDI IN (下段に表示されています) は、すべて1となっていますね。これは、MIDI IN1に入力されたMIDI情報がOUTPUTの2-4で出力されていることを示しているのです。つまり、MIDI INの1のみ有効にして、OUTPUT2-4までを独占していることになるという、1IN/3OUTのMIDIスルーボックスとしているわけです。もちろん、DX7がQX1、QX21といったシーケンサーであってもかまいません。

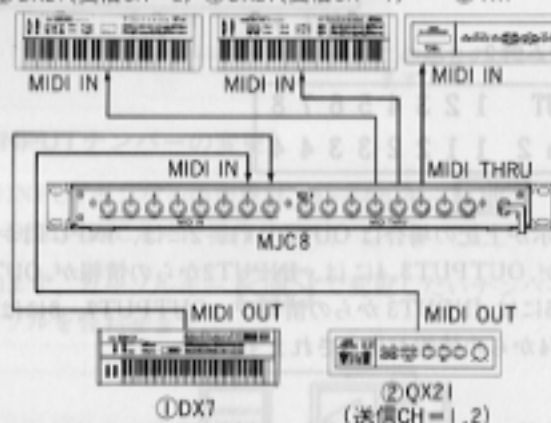
ここでOUTPUTの1をあけてあるのは、DX7に1番を割り振っており、異なる機器で同一番号を使用するという混乱を避けるためです(4ページ、「番号ステッカーについて」参照)。

このように、MIDIシステムの操作における“MIDIチャンネルの設定”といった煩わしさが一挙に解決されることになるのも、MJC8の大きな特長の一つといえます。

TYPE 2

マスターキーボードとシーケンサーのコントロールする音源を割り当てる。

⑤DX21 (受信CH=2) ④DX27 (受信CH=1) ③TX7



LCD表示

```
OUTPUT  1 2 3 4 5 6 7 8
patch 2 * * 1 2 2 * * *
```

ディスプレイをこのように表示させます。

(*は、OUTPUTが使われていないので、ナンバーは、いくつでもかまいません)

このプログラムは、DX7でTX7を、QX21でDX27とDX21をコントロールしたい時に使います。OUTPUTからの接続は、TYPE1と同じですが、MIDIの受信チャンネルをかえてあるところに注目してください。これは、QX21のMIDIの送信(録音)チャンネルに合わせてあるのです。

QX21 (送信CH=1) ————— DX27 (受信CH=1)

QX21 (送信CH=2) ————— DX21 (受信CH=2)

また、LCD表示をみると、OUTPUTの4(DX27)とOUTPUTの5(DX21)が、INPUTの2(QX21)からのMIDI情報を受けようになっていますね。

さらに、OUTPUTの3(TX7)は、INPUTの1(DX7)からの情報を受けようになっています。これで、DX7とQX21がコントロールする音源を割り当てることのできるのです。

バリエーション1

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 3 * * 1 1 2 * * *

DX7がTX7とDX27を、QX21がDX21をコントロールします。

バリエーション2

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 4 * * 2 1 2 * * *

DX7がDX27を、QX21がTX7とDX21をコントロールします。

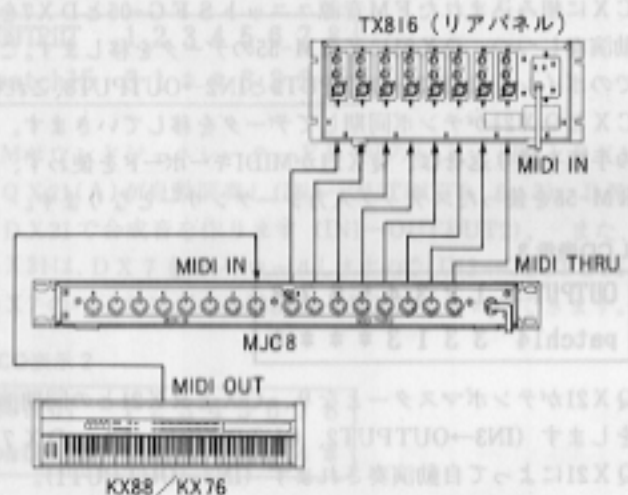
バリエーション3

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 5 * * 2 2 1 * * *

DX7がDX21を、QX21がTX7とDX27をコントロールします。

TYPE 3

マスターキーボードKX88やKX76で、FM音源システムTX816のコントロールするモジュールをセレクトする



次のように、プログラムすることによって、KX88やKX76がコントロールするモジュールをセレクトできます。

LCD表示1

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 6 1 * * * * * *

モジュール1のみをコントロールします。

LCD表示2

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 7 1 * 1 * 1 * 1 *

モジュール1、3、5、7をコントロールします。

LCD表示3

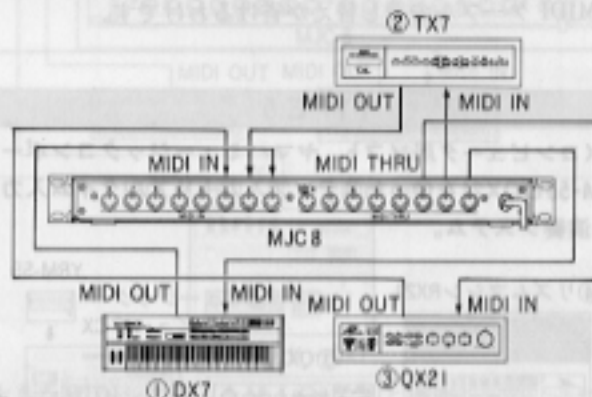
OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 8 1 1 1 1 1 1 1

全てのモジュールをコントロールします。

この場合は、TX816の各モジュールのMIDI INに対して、MJC8のOUTPUT (MIDI THRU)1~8を接続してあります。さらに、MJC8のMIDI INは、1のみ使っていますので、どのモジュールにKX88/KX76の情報を送るかは、
"1".....情報を送る。
"*"または、1以外のナンバー.....情報を送らない。
となるわけです。この接続例は、KX1やKX5などのリモートキーボードを使う時などにも、大変に便利です。

TYPE 4

QX21へのデータ入力と再生。



今度は、少し複雑な接続例です。MJC8のMIDI INとOUTPUT T (MIDI THRU) を整理しておきましょう。

NO	1	2	3	4	5	6	7	8
OUT	DX7	TX7	QX21	*	*	*	*	*
NO	1	2	3	4	5	6	7	8
IN	DX7	TX7	QX21	*	*	*	*	*

LCD表示1

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 9 2 1 1 * * * * *

DX7でQX21へデータ入力をします。そして、OUTPUT2 (TX7)へも出力していますので、同時にTX7の音出しもします。また、OUTPUT1 (DX7)へは、TX7の出力がきていますので、DX7とTX7とでデータの送・受信ができます。

LCD表示2

OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch 10 3 3 * * * * *

OUTPUT1 (DX7)とOUTPUT2 (TX7)に、QX21の出力がきています。これは、QX21でDX7とTX7を自動演奏するプログラムというわけです。

LCD表示 3

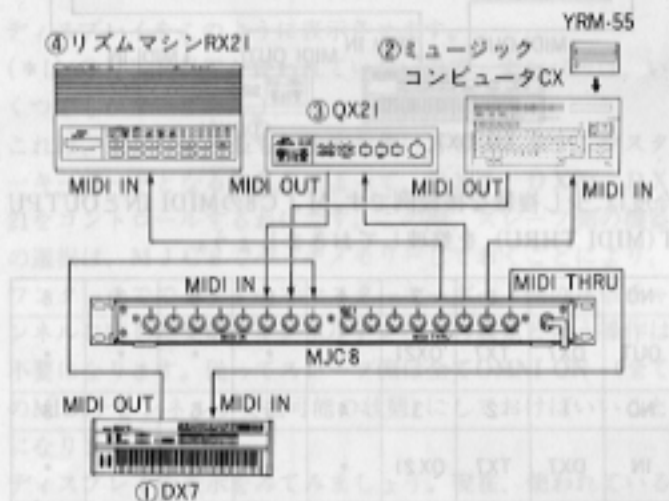
```
OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch11 2 3 1 * * * * *
```

これは、基本的にはQ X 21でT X 7を自動演奏するプログラムですが、OUTPUT3(Q X 21)にD X 7の出力がきていることによって、Q X 21のエコーバック機能を使い、T X 7のコントロールをQ X 21+D X 7ですることができます。Q X 21とのツインリードなど様々な演奏のバリエーションが楽しめます。

このように、シーケンサーのデータ入力にありがちなMIDI ケーブルの差し替えが省けるわけです。

TYPE 5

MSXコンピュータ用ソフト、ヤマハミュージックコンポザーYRM-55とQX21を使ったステップ入力+リアルタイム入力の自動演奏システム。



これは、YRM-55とQX21を使ったステップ入力+リアルタイム入力可能な自動演奏システムです。YRM-55で作ったデータをQX21に移したり、または、DX7の手弾きによる演奏をリアルタイムで録音することができるシステムとなります。このシステムでは、QX21がマスターレコーダーとなりますので、ステップ入力の部分をYRM-55で作り、リアルタイム入力の部分をDX7でQX21に録音していくことになります。ここでも、各機器のIN/OUTを整理しておきましょう。

NO	1	2	3	4	5	6	7	8
OUT	DX7	CX	QX21	RX21	*	*	*	*
NO	1	2	3	4	5	6	7	8
IN	DX7	CX	QX21	*	*	*	*	*

LCD表示 1

```
OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch12 2 1 * * * * *
```

DX7を使ってYRM-55へデータを入力(MIDI IN1→OUTPUT2)し、そのデータでDX7を演奏することができるプログラムです。

LCD表示 2

```
OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch13 2 3 2 * * * * *
```

CXに組み込まれたFM音源ユニットSFG-05とDX7を自動演奏しつつ、QX21にYRM-55のデータを移します。ここでのポイントは、IN3→OUTPUT2とIN2→OUTPUT3、これで、CXとQX21がテンポ同期してデータを移していきます。この手順を繰り返せば、QX21がMIDIキーボードを使わず、YRM-55を使ったステップ入力シーケンサーとなります。

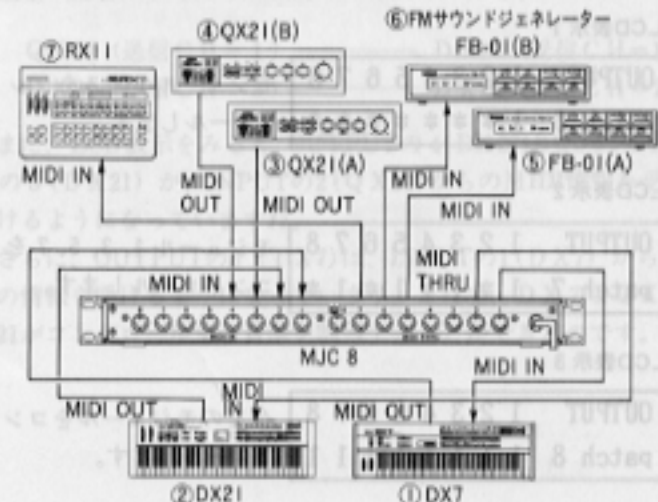
LCD表示 3

```
OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8
patch14 3 3 1 3 * * * * *
```

QX21がテンポマスターとなり、CXとRX21との同期演奏をします(IN3→OUTPUT2, OUTPUT4)。また、DX7は、QX21によって自動演奏されます(IN3→OUTPUT1)。

TYPE 6

自動演奏を中心としたライブセッティング。



MJC8は、自動演奏を中心としたライブシステムに取り入れることによって、ステージでの操作を大幅に簡略化することができます。

特に、QX21のようにテープにデータを記憶させておくシーケンサーを使う場合、セーブ用とロード用として交互にQX21×2台を使うことが望ましいのですが、使用する音源のセレクトが大きな問題点となります。ここで、MJC8を使って、ライブ用にシステム化したMIDIシステムを組んでみましょう。

各機器のMIDI INとOUTは、次のようになっています。

NO	1	2	3	4	5	6	7	8
OUT	DX7	DX21	*	*	FB-01 (A)	FB-01 (B)	RX11	*
NO	1	2	3	4	5	6	7	8
IN	DX7	DX21	QX21 (A)	QX21 (B)	*	*	*	*

LCD表示1

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch15	3	1	*	*	3	3	3	*

FMサウンドジェネレーターFB-01の(A)、(B)とRX11をQX21(A)が自動演奏し(IN3→OUTPUT5、6、7)、DX7とDX21で合成音を作ります(IN1→OUTPUT2)。また、QX21は、DX7もコントロールしますので(IN3→OUTPUT1)、DX7のバックイングの自動演奏+DX21のソロができます。

LCD表示2

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch16	4	4	*	*	1	1	4	*

DX7とFB-01(A)、(B)で合成音を作り(IN1→OUTPUT5、6)、QX21(B)は、DX21とRX11を自動演奏します(IN4→OUTPUT2、7)。また、QX21は、DX7もコントロールします。

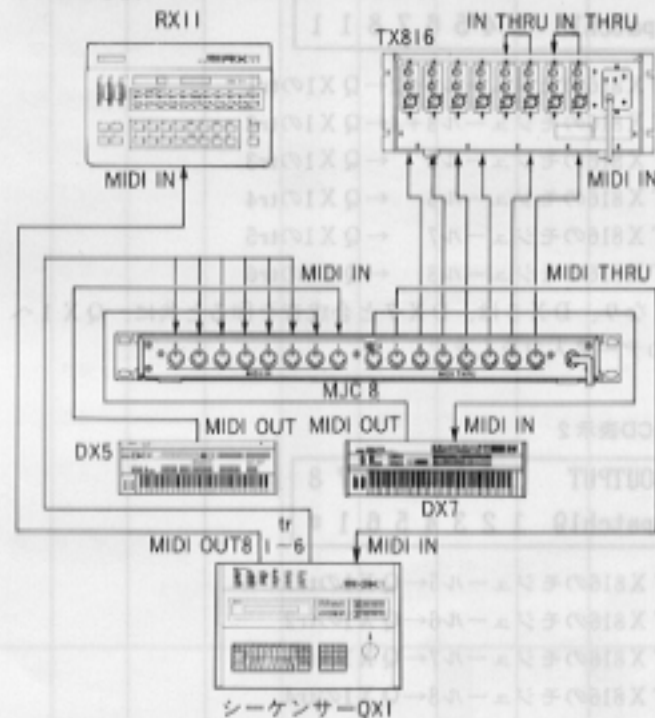
LCD表示3

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch17	3	3	*	*	3	3	3	*

QX21(A)が、全ての音源を自動演奏します。

TYPE 7

MJC8を使った大きなMIDIシステム。



大きなMIDIシステムをMJC8でまとめましょう。このくらいの大規模なシステムとなると、MIDIケーブルの配線は、より煩雑なものになりがちとなります。各IN/OUTの関係をしっかりと把握しておくのがポイントです。

NO	1	2	3	4	5	6	7	8
OUT	TX 816	TX 816	TX 816	TX 816	TX 816	TX 816	QX1	DX7
	1+2	3+4	5	6	7	8		
NO	1	2	3	4	5	6	7	8
IN	DX5	DX7	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1
			tr1	tr2	tr3	tr4	tr5	tr6

上の表と接続図をみるとわかるように、TX816は、モジュール1と2、3と4で一つのモジュールとして音を作っています。そして、QX1のtr8は、直接RX11に接続してあります。このシステムでのマスターキーボードはDX5となり、QX1へのデータ入力もDX5でするのがよいでしょう(DX7でも可能となっています)。また、DX5は、TX816やDX7をコントロールすることもできるようになっています。

LCD表示 1

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch18	3	4	5	6	7	8	1	1

TX816のモジュール1+2←QX1のtr1
TX816のモジュール3+4←QX1のtr2
TX816のモジュール5 ←QX1のtr3
TX816のモジュール6 ←QX1のtr4
TX816のモジュール7 ←QX1のtr5
TX816のモジュール8 ←QX1のtr6
となり、DX5は、DX7と合成音を作ると共に、QX1へのデータ入力をします。

LCD表示 2

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch19	1	2	3	4	5	6	1	*

TX816のモジュール5←QX1のtr1
TX816のモジュール6←QX1のtr2
TX816のモジュール7←QX1のtr3
TX816のモジュール8←QX1のtr4
となり、DX5は、TX816のモジュール1+2と、DX7は、TX816のモジュール3+4と合成音を作るとい手弾きの部分を厚いサウンドにしたライブ向きのプログラムといえます。

LCD表示 3

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch20	3	*	*	*	*	*	1	*

QX1のtr1のみをTX816のモジュール1+2を使ってプレイバックします。この際、RX11にはQX1のtr8が単独に接続してあるので、リズムのモニターは、常に聞くことができます。QX1へのデータ入力は、DX5でします。作成したデータをトラック毎に確認する時に便利です。

LCD表示 4

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch21	3	*	3	*	*	*	1	1

QX1へのデータ入力はDX5でしますが、実際に出ている音は、DX5+DX7となります。また、QX1のプレイバック時には、TX816のモジュール1+2と5を使いますので、入力時と同じクオリティの音で(DX5+DX7)確認ができます。

仕 様

- パッチメモリー.....50メモリー
- コントローラー/スイッチ.....STORE、MEMORY SELECT、CURSOR (←、→)、DEC(NO)、INC (YES)、POWER SW
- ディスプレイ.....LCD(16字×2行)、OUTPUT MONITOR (LED×8)
- コントロール端子.....MIDI IN1~8、MIDI THRU1~8
- 寸法・重量.....48.0(W)×4.52(H)×27.4(D)cm・3.25kg
- 定格電源電圧・周波数.....100V・50/60Hz
- 定格消費電力.....7W

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

blank chart

記入例 (P.9, TYPE6)

		1	2	3	4	5	6	7	8
OUTPUT		DX7	DX21	*	*	FB-01 (A)	FB-01 (B)	RX11	*
INPUT		1	2	3	4	5	6	7	8
Patch No.		DX7	DX21	QX21 (A)	QX21 (B)	*	*	*	*
		INPUT INSTRUMENT No.							
15	3	1	*	*	*	3	3	3	*
16	4	4	*	*	*	1	1	4	*
17	3	3	*	*	*	3	3	3	*
		MEMO							
		QX21(A)でDX7,FB-01,RX11を自動演奏。 DX7でDX21と合成音。							
		QX21(B)でDX7,DX21,RX11を自動演奏。 DX7でFB-01と合成音。							
		QX21(A)で全音源自動演奏。							

OUTPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
patch18	3	4	5	4	7	8		
patch19	3	2	3	4	5	6	7	8
MEMO	<p>OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8 patch20 3 4 5 6 7 8</p>							
INPUT	1	2	3	4	5	6	7	8
MEMO	<p>OUTPUT 1 2 3 4 5 6 7 8 patch21 3 4 5 6 7 8</p>							
Patch No.	INPUT INSTRUMENT No.							
11	3		*	*	3	3	3	*
12	4		*	*	1	1	4	*
13	3		*	*	3	3	3	*
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								
51								
52								
53								
54								
55								
56								
57								
58								
59								
60								
61								
62								
63								
64								
65								
66								
67								
68								
69								
70								
71								
72								
73								
74								
75								
76								
77								
78								
79								
80								
81								
82								
83								
84								
85								
86								
87								
88								
89								
90								
91								
92								
93								
94								
95								
96								
97								
98								
99								
100								

サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ケ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご持参頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。又お買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっております。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ヤマハ株式会社

シンセサイザー 事業部 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(60)2445
国内営業部 〒150 渋谷区道玄坂2 10 7 新大宗ビル3F
TEL. 03(476)1521
東京事業所 〒104 東京都中央区銀座7 11 3 矢島ビル
TEL. 03(574)8592
大阪事業所 〒542 大阪市南区南船場3 12 9
心斎橋プラザビル東館
TEL. 06(252)5231
名古屋事業所 〒460 名古屋市中区錦1 18 28
TEL. 052(201)5145
九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前2 11 4
TEL. 092(472)2155
北海道営業所 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター
TEL. 011(512)6113
仙台営業所 〒980 仙台市大町2 2 10
TEL. 0222(22)6146
広島営業所 〒730 広島市中区紙屋町1 1 18
TEL. 082(244)3744

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点 (修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL. (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション 〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F)
TEL. (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター 〒585 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL. (06) 877-5262
四国電音サービスステーション 〒780 高松市丸龜町8-7(ヤマハ高松店内)
TEL. (0878) 51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
(ヤマハ名古屋流通センター)
TEL. (052) 652-2230
九州電音サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. (092) 472-2134
北海道電音サービスセンター 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目(ヤマハセンター内)
TEL. (011) 513-5036
仙台電音サービスセンター 〒993 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター3F)
TEL. (0222) 36-0249
広島電音サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2-27-39
TEL. (082) 874-3787
浜松電音サービスセンター 〒435 浜松市上西町911
TEL. (0534) 65-6711

本社 電音サービス部 〒435 浜松市上西町911
TEL. (0534) 65-1158
※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA